

「建築デザイン研究室 8-68A」

石田敏明*

Architectural Design Laboratory 8-68A

Toshiaki ISHIDA*

1. 前橋から横浜へ

神奈川大学工学部建築学科へ赴任したのは、2016年4月。群馬県にある公立大学前橋工科大学に19年間勤務した後、継続的に赴任したため、それまで蓄積した研究資料をほぼそのまま神奈川大学の横浜キャンパスに移動したような格好になった。与えられた「8-68A 建築デザイン研究室」は筆者が尊敬する白濱謙一先生、高橋志保彦先生、室伏次郎先生、重村力先生など歴代の研究室を継承する形となり、とても身に余る光栄であり、身の縮まる思いであった。

2. 横浜キャンパスと建築

横浜キャンパスは近代建築運動のリーダーの一人、モダニズムデザインの名手である建築家 山口文象率いる RIA 建築総合研究所が1954年にキャンパス整備計画を行なっている。(図1)



図1 神奈川大学総合計画図 1954 2011 年度 RAKU Vol.8 より転載

キャンパス内には RIA が設計した建築群もあり、そのほとんどは解体されたが 5 号館(図2)は端正なプロポーションが魅力的で銀杏並木があるプロムナードとともに当時のモダニズム建築の雰囲気を残しつつ今に伝えている。また、近年では現代建築の巨匠の一人であり、横浜新市庁舎の設計者でもある横文彦氏デザインの 16 号館

セレストホール(図3)や本学卒業生で設計者の一人でもあり、かつ本学建築学科卒業生である萬玉直子さんの新国際学生寮や卒業生設計の 30 号館(宮陵会館)(図4)がある。一連の建築を眺めてみると横浜キャンパスには建築を創造する脈々とした精神が地下水脈のように流れていることが読み取れる。それは神奈川大学建築学科の特徴の教育目標の一つである「人を育てる」が寄与しているように思われる。一部のキャンパス施設の設計者を卒業生が参加できるコンペ形式を採っていることによるのではないだろうか。こうした卒業生を支援し、かつ卒業後も人材を育成する制度は今まで他では聞いたことがないし、他大学に誇れる神奈川大学独自の素晴らしい制度だと思う。今後もこうした制度は神奈川大学の良き伝統として引き継いでもらいたいと願うばかりである。



図2 5号館



図3 16号館(セレストホール)



図4 30号館(宮陵会館)

*教授 建築学科
Professor, Dept. of Architecture

3. 横浜建築とみなとみらいキャンパス

港町横浜には山手の洋館建築やレンガ造、組積造など多くの近代建築がある。建築学科では毎年、新入生に FOC の際、「横浜近代建築 関内・関外の歴史的建造物」という横浜の歴史的建造物を紹介する冊子を配布している。建築はその土地の風土や文化を読み取って、その場所に相応しい固有のデザインが求められる。神奈川大学が横浜発祥という経緯もあり、横浜の文化に触れ土地への愛着を育て、建築デザインのあるべき姿を知って欲しいと願うためである。2020 年、待望の「みなとみらいキャンパス」(図 5)が竣工した。2018 年から筆者も含めて建築学科のデザインコースの教員と筆者の前任教授である重村先生を加えて教育現場に携わる者として、また建築の専門的立場から新校舎設計の設計アドバイザーとして参加した。新キャンパスは従来の平面的拡がりのあるキャンパスとは異なり超高層の施設である。街なかにある時代を反映した大学キャンパスのデザインとは何か、オフィスビルとは一線を画する学舎としてのキャンパスらしさとは何かなど自由かつ活発な意見交換があり工事途中の現場にもメンバーで足を運んだ。楽しく、また得難い貴重な経験であった。



図 5 神奈川大学みなとみらいキャンパス 神奈川大学 HP より

4. 教育・研究活動について

筆者の研究領域は建築意匠と設計である。中でもまちづくりや住居系建築が専門であるが、着任してから研究対象を横浜に因んだ内容にしたいと思っていた。横浜には建築デザイン教育に携わっている知人も多い。ある集まりで横浜に縁のある建築家の話題になり、緒形昭義という建築家と作品を初めて知った。興味が湧き、その後研究室の学生とともに代表作である緑区にある「竹山団地センターゾーン」(図 6 1972 年竣工)と「寿町総合労働福祉会館」(1974 年竣工、2016 年解体)(図 7-1, 2)を訪れた。後者は解体中の現場であったが、建築と広場の関係が設計者のデザイン思想を確認できた。現在、「建築家 緒形昭義-人と作品」として研究室の大学院生と共同で研究報告書としてまとめつつある。また、研究室として地方の過疎化と空き家問題、廃校舎などの公共施設の利活用について行政や地元住民へのヒヤリング調査、実地調査を通して交流を行ってきた。(図 8-10,15)

2018 年度から 2020 年度は研究テーマとして、「瀬戸内海地方の広島県東部地域の再生・活性化に関する調査と提案-其の 1・2・3」を、2019 年度は「新潟市街地における空き家の再生・活用に関する研究と提案」(図 9)を行った。



図 6 竹山団地センターゾーン 1972 竣工 *2016 年撮影



図 7-1 寿町総合福祉会館 1974 年竣工(解体前) *撮影:井上岳



図 7-2 寿町総合福祉会館 1974 年竣工 *解体現場 2016 年撮影

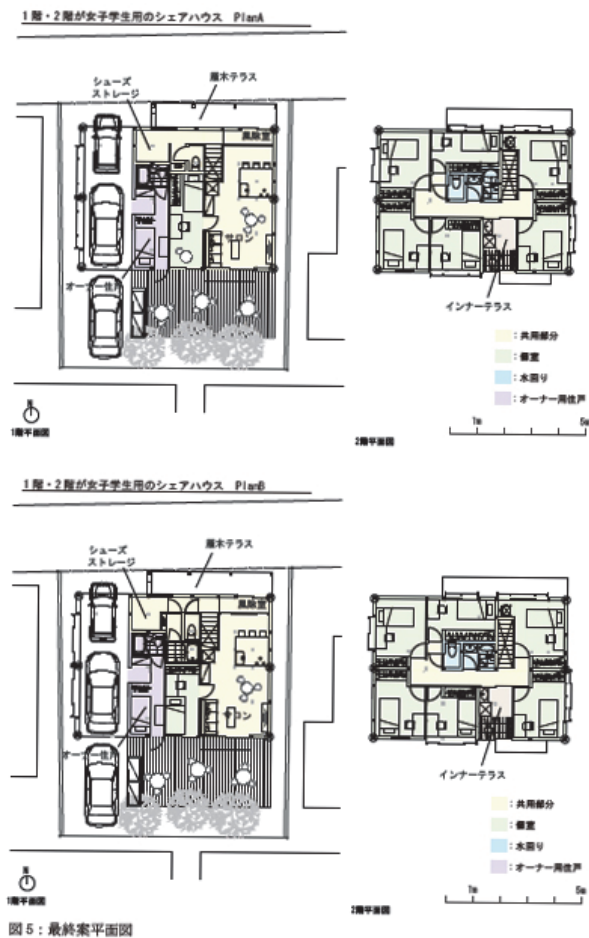


図8 新潟 関屋松波町N改修プロジェクト平面図

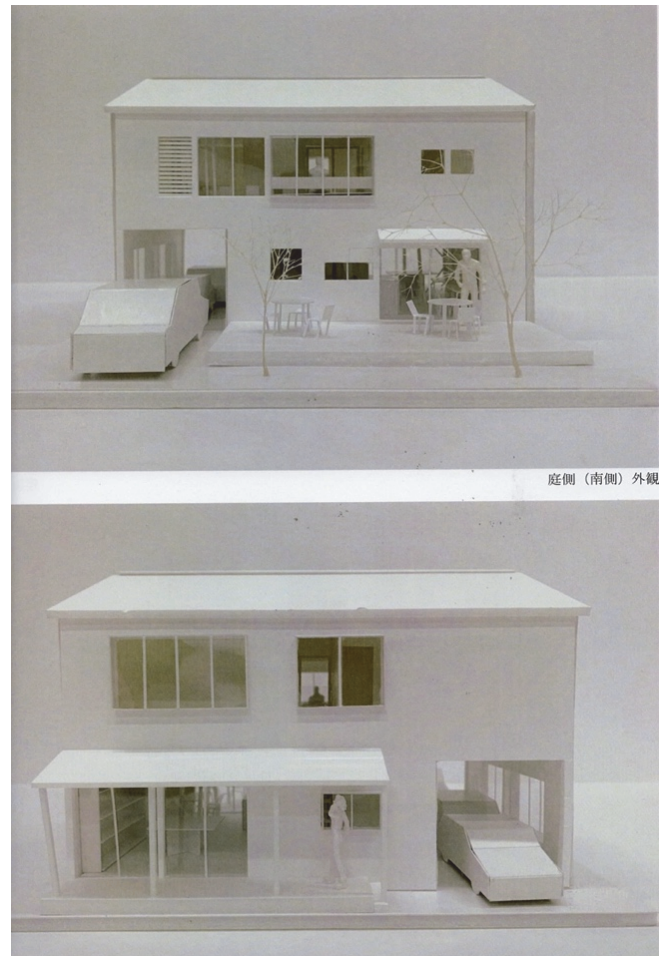


図10 新潟 関屋松波町N改修プロジェクト模型写真

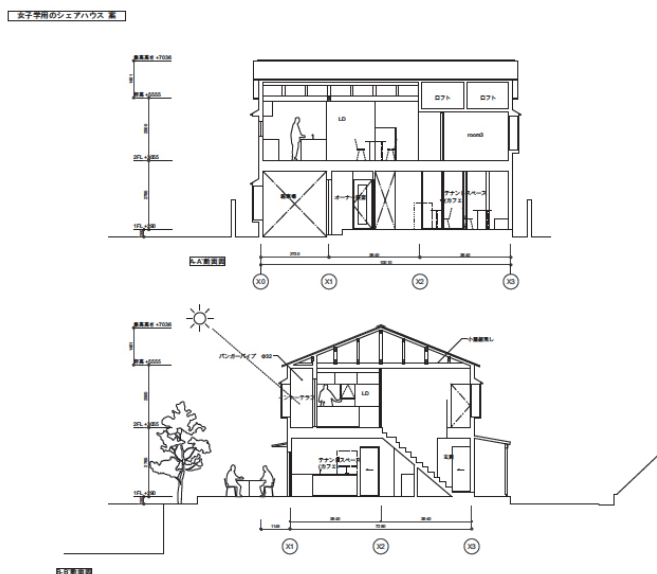


図9 新潟 関屋松波町N改修プロジェクト断面図

最終年度の今年度は旧小学校の校地全体と廃校舎の利活用・運営に関する具体的な提案を自治体や地元の人々に中間発表の予定であったが、新型コロナ禍のためワークショップも含めて中止せざるを得なかったのは、とても残念であったが年度末にはリモートによるプレゼンテーションを考えている。また、教育の一環としてゼミ生との国内外のゼミ旅行(図14)や神奈川大学アジア研究センター共同研究「東アジア4国際都市の脆弱地区の調査、ならびに環境社会再生への方法の探究」で参加した海外の大学や教員との国際交流(図11-12)は風土や文化、社会問題を相互理解する上で大変、役に立った楽しい思い出である。嬉しいことに『アジアのまち再生 社会遺産を力に』(図13)として書籍化された。

神奈川大学での5年間は教える立場でありながら、多くの得難い経験や知見も多々あった。この場を借りて感謝申し上げるとともに神奈川大学の益々の発展を願っている。



図 11 2019 年度脆弱地区調査 タイ



図 12 2019 年度脆弱地区調査 Community Organizations Development Institute(CODI)にて タイ

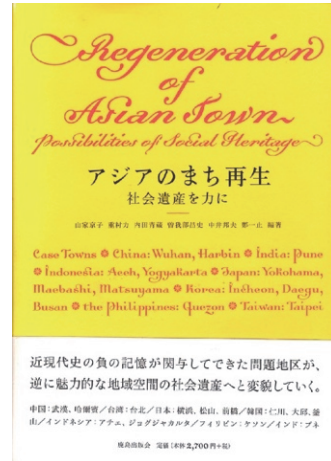


図 13 「アジアのまち再生 社会遺産を力に」(共著 2017 年発行 鹿島出版会)



図 14 2018 年度ゼミ旅行 台湾

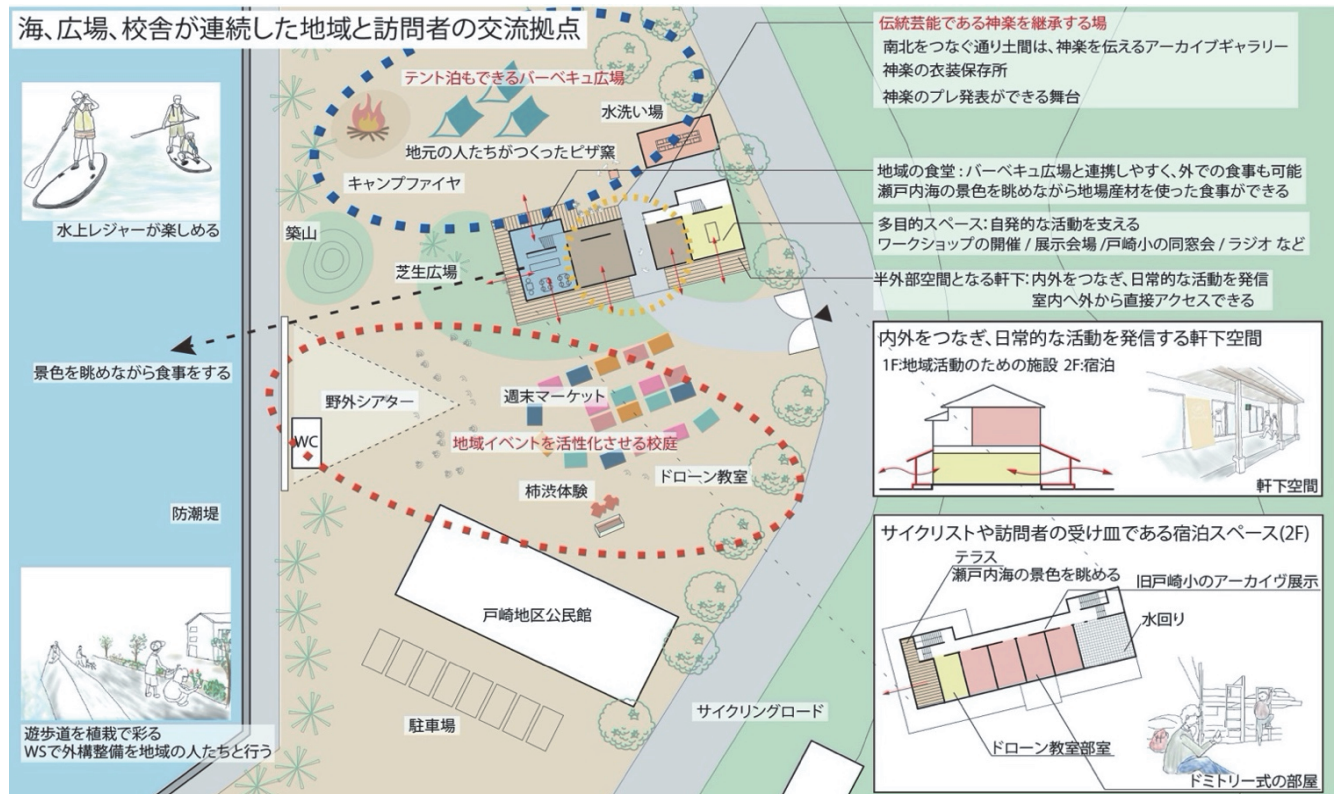


図 15 旧尾道市立戸崎小学校 全体計画図 2020